

予算決算常任委員会総括質疑一覧（予算）

6月30日（水）

会派自民 1番 / 自民党こまつ 2～3番 / 無会派 4～5番

会派名 会派自民

No. 1

順番	質疑者氏名	質疑通知要旨
1	新田 寛之	<p>1. 学校給食無償化推進費（中3）について（42,000千円）</p> <p>(1) 全9学年で推進すべきではないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中3のみのスタートであるが、なぜ全9学年で進めないのか ・学校外活動費支援策としてスタートしてはどうか ・条件付きでスタートする考えはないのか ・完全無償化として進めるのであれば、こども園等園児の給食副食費も含めてはどうか <p>(2) 学校給食完全無償化に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食全体の運営費について ・学校給食費の財源は ・補助メニューはあるか ・起債による運営は可能か ・基金の流用、基金創設の考えは <p>(3) 令和元年度決算ベースでの財政事情を検証する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経常収支比率94.5%が意味すること ・令和2年度決算の見込みについて ・まさに市民全体で子育て世代を支える施策である

順番	質疑者氏名	質 疑 通 知 要 旨
1	新田 寛之	<p>(4) 行財政改革による固定費を含む経費の削減について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費（会計年度任用職員を含む）について ・ 公債費について ・ 物件費について <p>(5) 財源確保策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと納税について ・ 受益者負担金の見直し ・ 扶助費の自然増について ・ コロナ禍による税収の見込み <p>(6) 事務事業の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務事業評価の見える化を行うべき ・ パブリックコメント等で市民ニーズを探る ・ 次年度予算編成前に財源の裏づけを議会に報告し，承認を得るべき

順番	質疑者氏名	質 疑 通 知 要 旨
2	円地 仁志	<p>1. 学校給食無償化推進費（42,000千円）について</p> <p>(1) 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食費の徴収について ・ 市財政に与える影響 <p>(2) 給食費完全無償化に向けての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由に使える財源 ・ 行財政改革 ・ 独自財源の確保 <p>(3) 給食費完全無償化の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援は先行投資 <p>(4) 給食費完全無償化に向けたスケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の見通し

順番	質疑者氏名	質 疑 通 知 要 旨
3	川崎 順次	<p>1. 子育て世帯生活支援特別給付金費（98,300千円）について</p> <p>(1) 新型コロナの影響による生活支援対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支給対象者は ・支給額は ・その他 <p>2. 重層的支援体制移行促進費（1,000千円）について</p> <p>(1) ひきこもり，8050問題対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市単での取組，今後の対応 ・民生委員の充実について ・地域の役割，それに伴う支援は <p>3. 安全・安心な学校づくり費（77,000千円）について</p> <p>(1) 小中全校対象への実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校からの要望の中身 ・生徒の思い ・今後の取組

順番	質疑者氏名	質 疑 通 知 要 旨
4	木下 裕介	1. 栗津駅周辺整備費（20,000千円）について <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場などの整備について 2. 北陸新幹線建設推進費（75,000千円）について <ul style="list-style-type: none"> ・ 出入口の名称について
5	橋本 米子	1. 合葬墓・納骨堂整備費（391,000千円）について <ul style="list-style-type: none"> ・ 「多様化する社会ニーズに合った新しいお墓のかたち」とあるが、小松市の特徴的な形について ・ 納骨堂・合葬墓の計画数がそれぞれ3,000体、15,000体とあるが、今後計画数の増加も可能か ・ 長年の無縁墓の処遇について ・ 申込みの予約方法や時期について